

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年9月
福岡市教育委員会

目次

1	調査概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の対象とする児童生徒	1
(3)	調査事項及び手法	1
(4)	調査の方式	1
(5)	調査日	1
(6)	集計児童生徒・学校数	2
2	調査結果と考察	3
(1)	調査結果と考察の考え方	3
(2)	教科に関する調査結果の概要	3
(3)	小学校国語の調査結果について	6
(4)	小学校算数の調査結果について	8
(5)	小学校理科の調査結果について	10
(6)	中学校国語の調査結果について	12
(7)	中学校数学の調査結果について	14
(8)	中学校理科の調査結果について	16
3	児童生徒質問及び学校質問調査の結果について	18
(1)	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	18
(2)	児童生徒質問と教科のクロス集計の分析	19
(3)	ICT を活用した学習状況とクロス集計の分析＜生徒質問—教科＞	21
(4)	規範意識・自己有用感等	22
4	成果と課題	24
5	取組の方向性	24
(1)	教育委員会としての取組	24
(2)	各学校での取組	24

1 調査概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る
- 学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の対象とする児童生徒

- 小学校調査
 - ・ 小学校第 6 学年、特別支援学校小学部第 6 学年
- 中学校調査
 - ・ 中学校第 3 学年、特別支援学校中学部第 3 学年

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

② 学校に対する質問調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査の方式

悉皆調査

教科調査 P B T（中学校の理科のみ C B T）

質問調査 C B T

(5) 調査日

教科に関する調査

（中学校・理科以外）

令和 7 年 4 月 1 7 日（木）

（中学校・理科）

令和 7 年 4 月 1 4 日（月）～ 1 7 日（木）

学校質問調査

令和 7 年 4 月 1 日（火）～ 1 7 日（木）

児童生徒質問調査（中学校）

令和 7 年 4 月 1 4 日（月）～ 1 7 日（木）

（小学校）

令和 7 年 4 月 1 8 日（金）～ 3 0 日（水）

(6) 集計児童生徒・学校数

①集計基準

- ・児童生徒に対する調査について、実施された教科に関する調査及び質問調査の結果を集計
- ・後日実施の場合、採点及び調査結果の提供は行われるが、全体集計からは除外
- ・学校に対する質問調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計

②集計児童生徒数（４月１７日に調査を実施した児童生徒数）

○小学校調査

- | | |
|-------|----------|
| ・国語 | 13,018 人 |
| ・算数 | 13,023 人 |
| ・理科 | 13,049 人 |
| ・児童質問 | 12,943 人 |

○中学校調査

- | | |
|-------|----------|
| ・国語 | 11,784 人 |
| ・数学 | 11,792 人 |
| ・理科 | 11,685 人 |
| ・生徒質問 | 11,805 人 |

③集計学校数

○小学校調査

- | | |
|---------|-------------------------|
| ・小学校 | 1 4 4 校（玄界小、小呂小が対象児童なし） |
| ・特別支援学校 | 0 校 |

○中学校調査

- | | |
|---------|----------------------|
| ・中学校 | 7 0 校（きぼう中学校が対象生徒なし） |
| ・特別支援学校 | 0 校 |

2 調査結果と考察

(1) 調査結果と考察の考え方

本調査結果については、福岡市における調査結果を全国及び福岡県と比較して示すとともに、福岡市の過去の調査結果をもとにした経年変化からも学力の状況について考察を行う。

また、教科に関する調査結果をもとに、その要因を児童生徒に対する質問調査や学校に対する質問調査からも考察を行う。

(2) 教科に関する調査結果の概要

①教科に関する調査結果の概況

(%)

小学校調査		国語	算数	理科
福岡市(市立)	平均正答率	68	59	59
福岡県(公立)	平均正答率	68	57	57
全国(公立)	平均正答率	66.8	58.0	57.1

○国語、算数、理科ともに、いずれも全国平均を上回る。

(%) (IRT スコア)

中学校調査		国語	数学	理科
福岡市(市立)	平均正答率・IRT スコア	55	50	50.3
福岡県(公立)	平均正答率・IRT スコア	54	47	49.7
全国(公立)	平均正答率・IRT スコア	54.3	48.3	50.3

○国語、理科は、全国平均と同程度である。

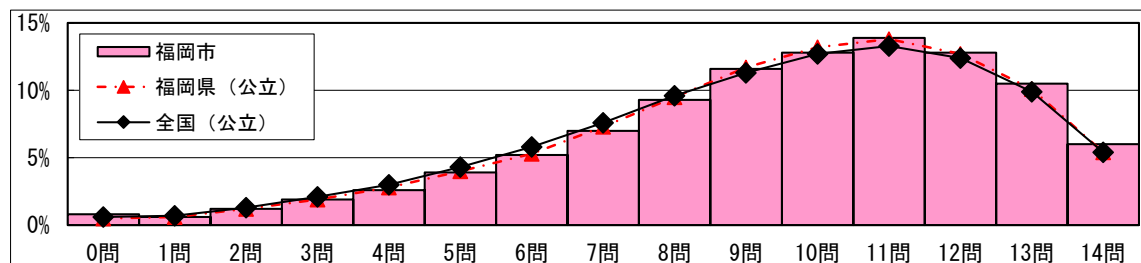
○数学は、全国平均を上回る。

②教科ごとの正答数分布

【小学校】

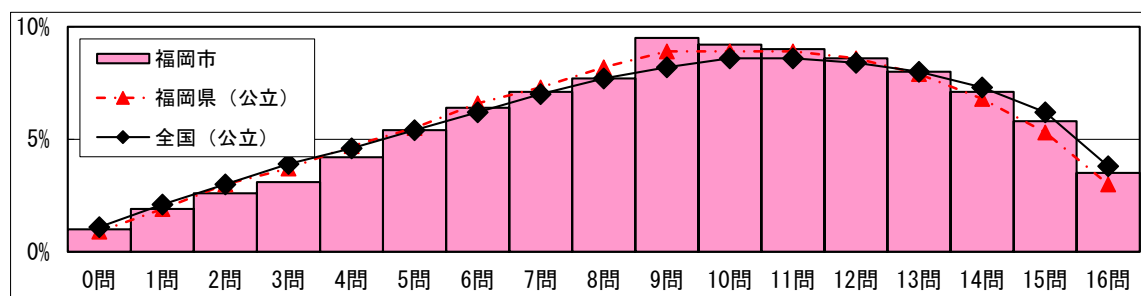
国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市	13,018	9.5 / 14	68	10.0	3.0
福岡県（公立）	42,143	9.5 / 14	68	10.0	3.0
全国（公立）	936,137	9.4 / 14	66.8	10.0	3.0



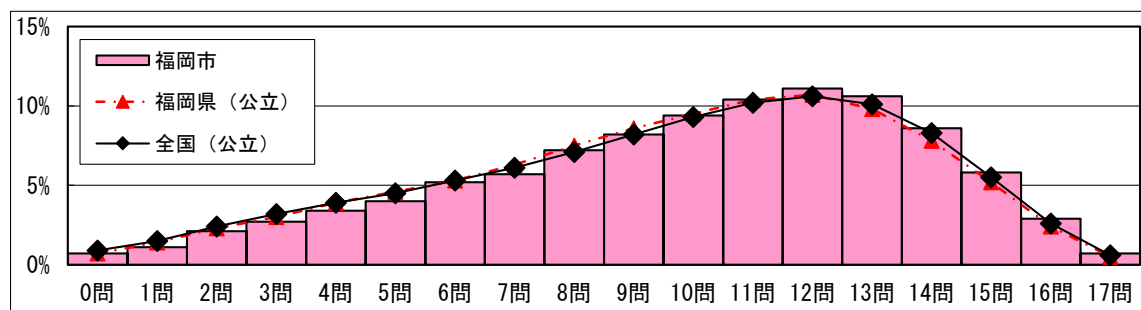
算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市	13,023	9.4 / 16	59	10.0	3.9
福岡県（公立）	42,159	9.2 / 16	57	9.0	3.9
全国（公立）	936,399	9.3 / 16	58.0	10.0	4.0



理科

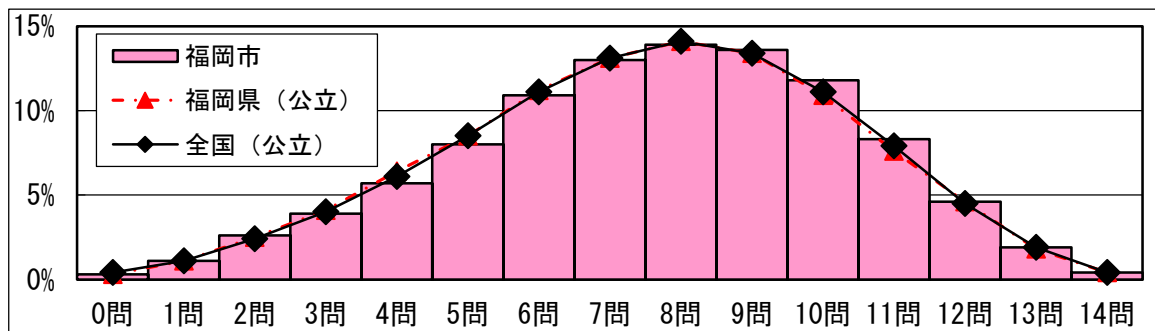
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市	13,049	10.0 / 17	59	11.0	3.7
福岡県（公立）	42,217	9.7 / 17	57	10.0	3.8
全国（公立）	936,576	9.7 / 17	57.1	10.0	3.8



【中学校】

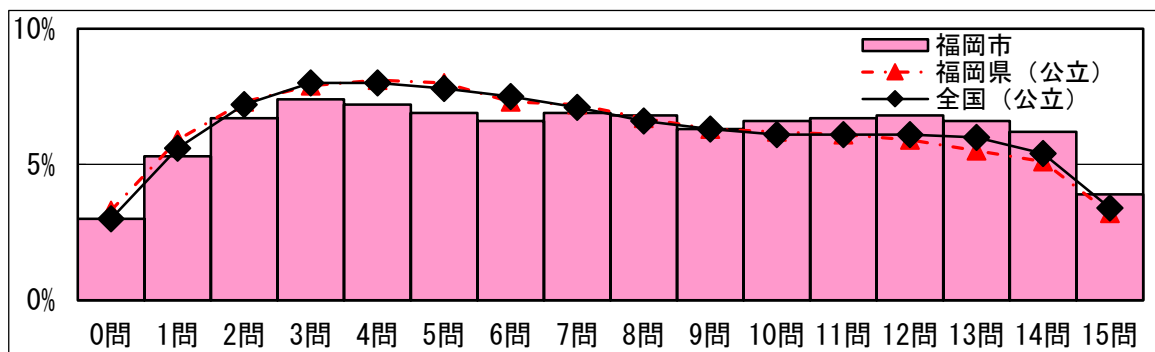
国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市	11,784	7.6 / 14	55	8.0	2.7
福岡県（公立）	40,284	7.6 / 14	54	8.0	2.7
全国（公立）	870,560	7.6 / 14	54.3	8.0	2.7



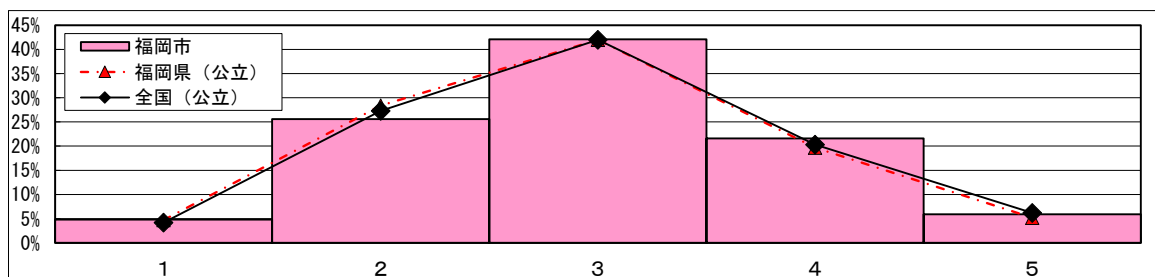
数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市	11,792	7.6 / 15	50	7.0	4.3
福岡県（公立）	40,323	7.1 / 15	47	7.0	4.2
全国（公立）	871,097	7.2 / 15	48.3	7.0	4.2



理科

	平均IRTスコア	標準偏差	IRTバンド				
			1	2	3	4	5
福岡市	503	122.5	4.8	25.6	42.1	21.6	5.9
福岡県（公立）	497	119.5	4.7	28.4	42	19.7	5.2
全国（公立）	503	124.0	4.2	27.3	42	20.3	6.2



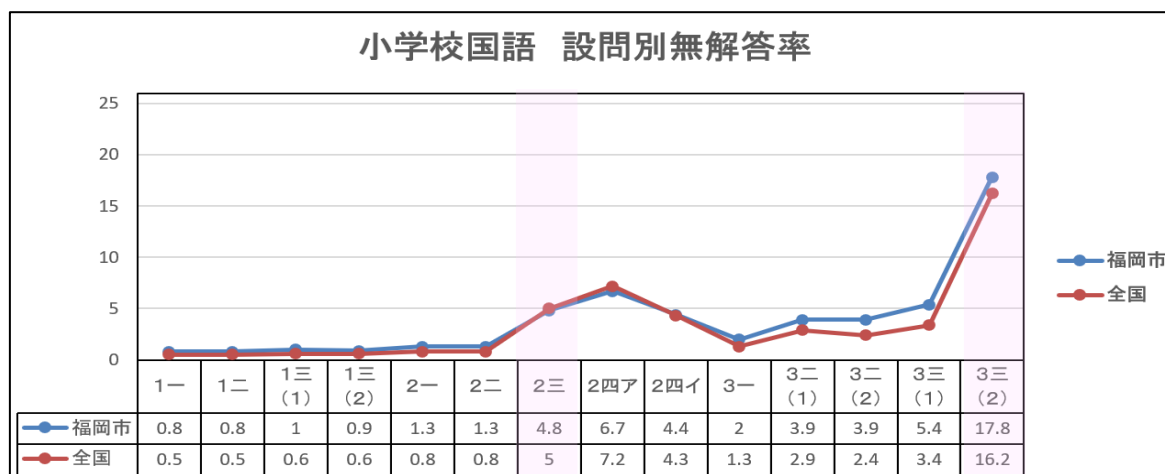
(3) 小学校国語の調査結果について

①内容及び観点ごとの調査結果

※ 全国（公立）を上回る 全国（公立）を下回る

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				福岡市	福岡県（公立）	全国（公立）
全体			14	68	68	66.8
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	78	78.9	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	64.7	63.8	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	82.1	81.5	81.2
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	67.7	66.9	66.3
		B 書くこと	3	70.6	70.4	69.5
		C 読むこと	4	58.7	58.1	57.5
評価の観点		知識・技能	4	75.7	75.8	74.5
		思考・判断・表現	10	65	64.4	63.8
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	66.3	65.1	64.7
		短答式	3	79.4	79.8	78.5
		記述式	2	58.8	61.2	58.8

②無解答率



※薄ピンクの網掛け記述式の問題

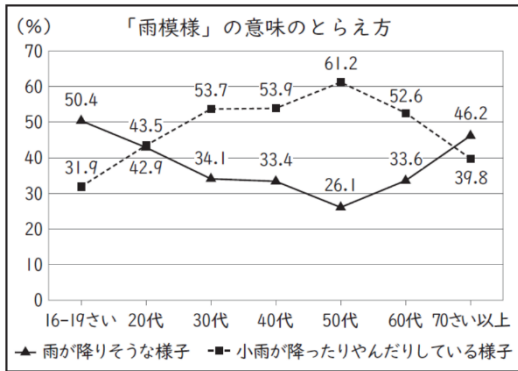
③平均正答率が高かった問題

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
2 (2)	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	83.4	81.8	+1.6

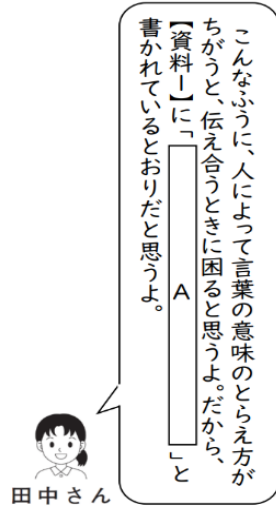
◆問題番号2(2)は、「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨である。

④課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
3三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	41.1	40.8	+0.3



(文化庁『令和4年度国語に関する世論調査』による。)



【資料4】

(文化庁国語課「文化庁国語課の勘違いしやすい日本語」による。)

言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的であった言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなったり、使い方が変わっていきたりする場合は少なくありません。ですから、意味や使い方に揺れが生じている言葉について、「この使い方が正しい」と決めつけるのは短絡的ともいえるでしょう。①この本を読むとお気づきになると思いますが、文化庁国語課では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに、②「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。言葉の正誤を軽々しく決めることはできないと考えるからです。とはいえ、どんな言葉を使ってもいい、というわけではありません。③コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。④「言葉は生きている」とも言われます。その広がりや深さにも、触れていただきたいと考えています。

【資料1】

三(1)【話し合いの様子】のAに当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

解答類型	福岡市	全国
1：誤答	4.8	5.2
2：誤答	32.5	33.9
3：正答	41.1	40.8
4：誤答	16.0	16.4
99：誤答	0.2	0.2
0：誤答	5.4	3.4

〔第5学年及び第6学年〕
思考力・判断力・表現力等
C読むこと

課題

今回の結果から、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題があると考えられる。

4 【資料1】の部④
3 【資料1】の部③
2 【資料1】の部②
1 【資料1】の部①

①この本を読むとお気づきになると思います
②「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています
③コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません
④「言葉は生きている」とも言われます

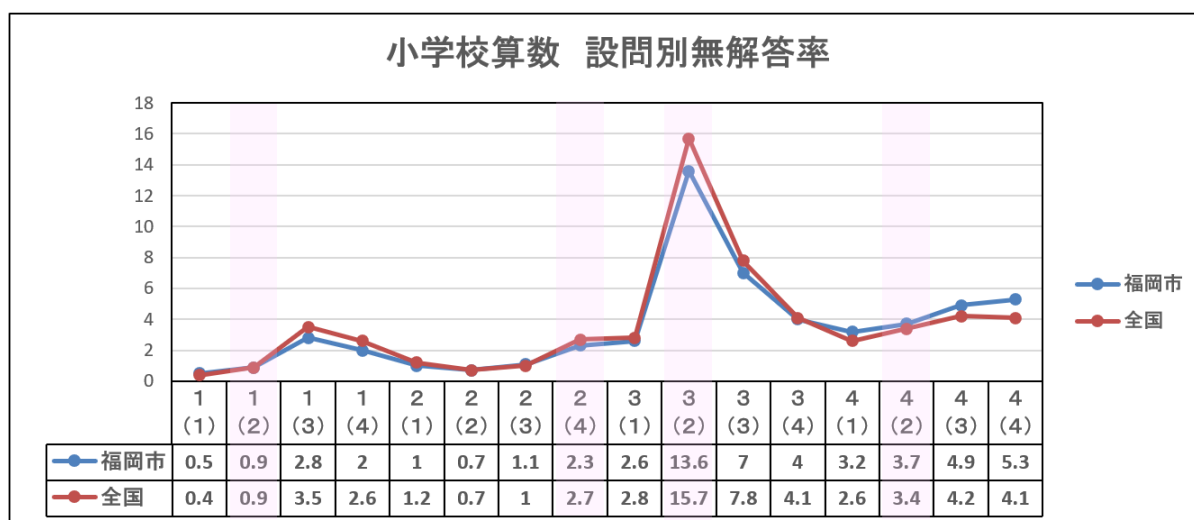
(4) 小学校算数の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

※ 全国（公立）を上回る 全国（公立）を下回る

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			福岡市	福岡県（公立）	全国（公立）
全体		16	59	57	58
学習指導要領の 領域	A 数と計算	8	64.1	61.9	62.3
	B 図形	4	55.1	55.6	56.2
	C 測定	2	53.9	53.6	54.8
	C 変化と関係	3	58.7	56.3	57.5
	D データの活用	5	64.1	62.1	62.6
評価の観点	知識・技能	9	66.2	64.7	65.5
	思考・判断・表現	7	48.7	47.7	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	68.4	66.2	67.2
	短答式	6	64.7	63.6	64
	記述式	4	34.3	34.5	34.9

②無解答率



※薄ピンクの網掛け記述式の問題

③平均正答率が高かった問題

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
4 (1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	84.3	82.8	+1.5

◆問題番号4 (1) は、「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨である。

④課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
3 (2)	$3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	23.2	23.0	+0.2

3 小数と分数（A 数と計算） 計算の仕方について統合的・発展的に考察すること

(2) 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の2個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の1個分です。
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2+1を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。
 もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

解答類型6

通分について記述しているが、共通する単位分数が $1/12$ であること、 $3/4$ と $2/3$ とがそれぞれ共通する単位分数の幾つ分かは記述できていない。

解答類型99

通分する際に分母と分子にかけた数を、単位分数の幾つ分かとして誤って捉えていると考えられる等。

〔正答の条件〕

- ① $3/4$ と $2/3$ に共通する単位分数が $1/12$ であることを表す数や言葉
- ② $3/4$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉
- ③ $2/3$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉

解答類型	わけ	福岡市
1	①、②、③全てを書いているもの	23.2
2	②、③を書いているもの	0.3
3	①、②を書いているもの ①、③を書いているもの	0.5
4	①を書いているもの	6.7
5	②を書いているもの ③を書いているもの	0.9
6	通分について書いているもの	24.7
7	$3/4$ は $1/4$ の3個分であることと、 $2/3$ は $1/3$ の2個分であることの両方、又はどちらから一方を書いているもの	3.6
99	上記以外の解答	26.5
0	無解答	13.6

課題

分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見いだすことで、既習の整数の加法に帰着できるようにすることが大切。

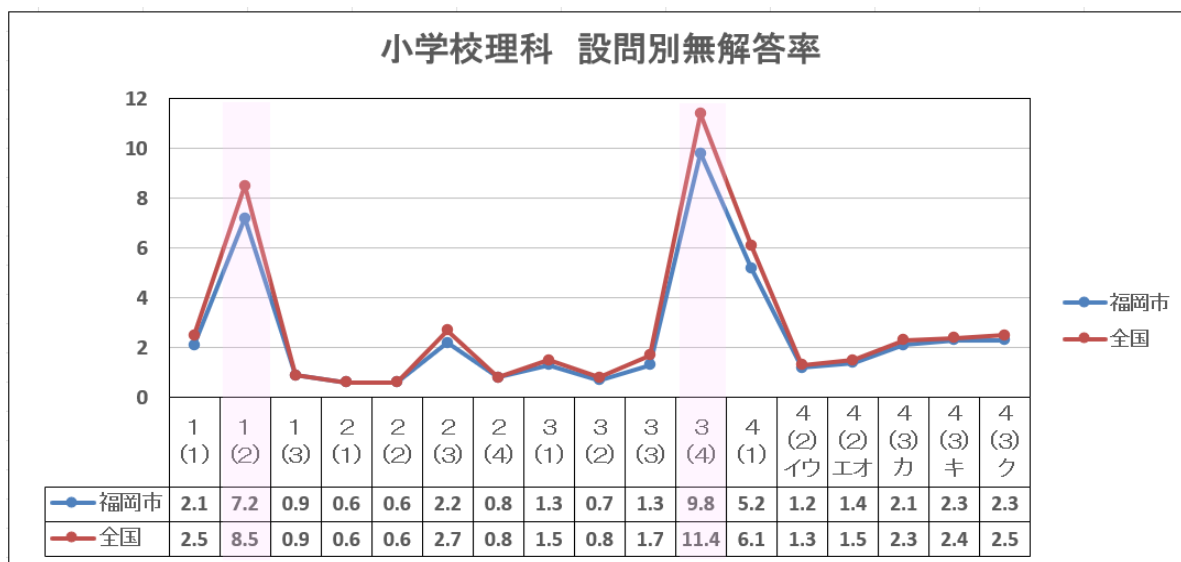
(5) 小学校理科の調査結果について

①内容及び観点ごとの調査結果

※ 全国（公立）を上回る 全国（公立）を下回る

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				福岡市	福岡県（公立）	全国（公立）
全体			17	59	57	57.1
学習指導要領 の区 分・領 域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	48.7	46.6	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	52.5	50.9	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	53.5	51.6	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	68.1	66.7	66.7
評価の観点		知識・技能	8	56.3	54.4	55.3
		思考・判断・表現	9	60.6	59.2	58.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	11	56.1	54.0	54.7
		短答式	4	71.6	69.9	69.7
		記述式	2	46.1	47.3	45.2

②無解答率



※薄ピンクの網掛け記述式の問題

③平均正答率が高かった問題

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
1 (1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	82.7	79.5	+3.2

◆問題番号1 (1) は、「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨である。

④課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
2(1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	11.5	10.6	+0.9

(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の **1** から **4** までの中からそれぞれ 1 つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでかまいません。

- 1** 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2** 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3** 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4** 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

解答類型		福岡市	全国
1：誤答	アルミニウム 1、鉄 1、銅 1 と解答しているもの	0.3	0.5
2：誤答	アルミニウム 1、鉄 1、銅 2 と解答しているもの	2.1	2.3
3：誤答	アルミニウム 2、鉄 1、銅 1 と解答しているもの	3.7	3.6
4：正答	アルミニウム 2、鉄 1、銅 2 と解答しているもの	11.5	10.6
5：誤答	鉄 2 と解答しているもの	3.1	3.8
6：誤答	アルミニウム、鉄、銅のいずれかに、3 または 4 と解答しているもの	78.2	77.9
99：誤答	上記以外の解答	0.6	0.7
0：誤答	無回答	0.6	0.6

【解答類型 6】

アルミニウム、鉄、銅のいずれかが電気を通さないと誤って捉えている。金属の共通する性質として、電気を通すという知識が身に付いていないと考えられる。

このことから、身の回りの金属について、電気を通す物があることに関する知識を身に付ける

課題

「磁石の性質」と「電気の通り道」では、鉄、アルミニウム、ガラス、木など、同じ対象物を用いて学習することが多い。それぞれの内容で習得した知識を物ごとに整理し、まとめるなどして、物質の性質について理解を深めることが大切。

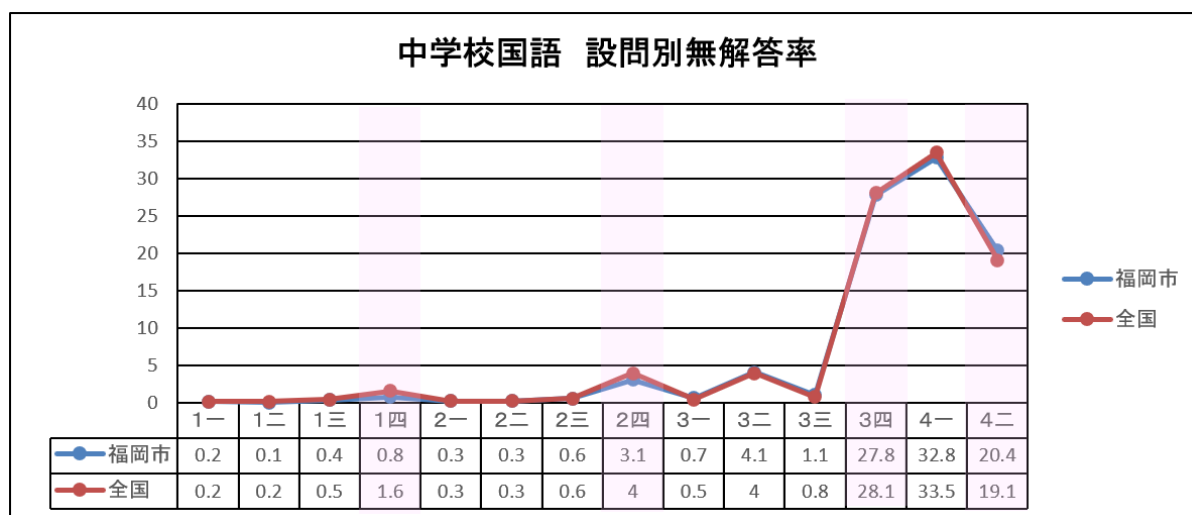
(6) 中学校国語の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

※ 全国（公立）を上回る 全国（公立）を下回る

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				福岡市	福岡県（公立）	全国（公立）
全体			14	55	54	54.3
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	49.4	47.1	48.1
		(2) 情報の扱い方にに関する事項				
		(3) 我が国の言語文化に関する事項				
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	53.7	53.6	53.2
		B 書くこと	5	52.6	52.1	52.8
		C 読むこと	3	62.7	62.3	62.3
評価の観点		知識・技能	2	49.4	47.1	48.1
		思考・判断・表現	12	55.5	55.1	55.3
		主体的に学習に取り組む態度				
問題形式		選択式	8	64.7	63.6	63.9
		短答式	2	74.5	73.4	73.6
		記述式	4	24.6	25.1	25.3

②無解答率



※薄ピンクの網掛け記述式の問題

③平均正答率が高かった問題

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
3 二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	89.8	89.9	-0.1

◆問題番号 3 (二) は「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨である。

④課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
3 四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く	17.2	17.1	+0.1

3 文学的な文章を読む(「二人の兄弟」) 設問四

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。
▼「第1学年」思考力、判断力、表現力等 C 読むこと
Ⅱ《精査・解釈》

四 [] で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のもとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

- (正答の条件)
- ① どのような効果があるかを書いている。
 - ② ①のように考えた理由を、「[]」の部分のような「あとに続く話」が、「一 榎木の実」にはあるが、「二 釣の話」にはない」という展開を踏まえて書いている。
 - ③ ②について、物語の内容を適切に取り上げて書いている。

解答類型		福岡市	全国
1 : 正答	条件①、②、③を満たして解答しているもの	17.2	17.1
2 : 誤答	条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.1	0.1
3 : 誤答	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	34.2	34.2
99 : 誤答	上記以外の解答	20.8	20.5
0 : 誤答	無解答	27.8	28.1

課題

【文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える】

- 文学的な文章の構成や展開について考えるためには、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められる。

その際、文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることが重要。

【今後の学習指導に当たって】

- 例えば、あとの展開を予測しながら作品を読み、文章の構成や展開の効果について考える学習活動が考えられる。その際、文章の構成や展開の効果を考えることの意義を生徒が実感できるようにすることが大切。

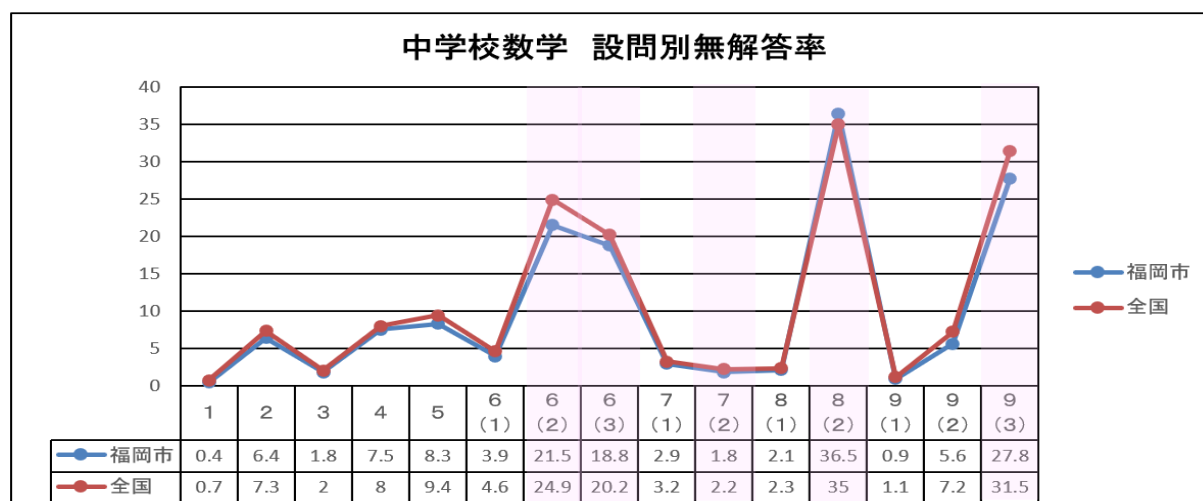
(7) 中学校数学の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

※ 全国（公立）を上回る 全国（公立）を下回る

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			福岡市	福岡県（公立）	全国（公立）
全体		15	50	47	48.3
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	47.5	43.5	43.5
	B 図形	4	46.7	43.9	46.5
	C 関数	3	47.3	46.4	48.2
	D データの活用	3	63	59.8	58.6
評価の観点	知識・技能	9	56.9	53.5	54.4
	思考・判断・表現	6	40.7	38.3	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	56.1	52.7	54.0
	短答式	7	54.1	50.7	52.0
	記述式	5	41.8	39.6	39.6

②無解答率



※薄ピンクの網掛け記述式の問題

③平均正答率が高かった問題

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
7 (1)	Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	80.0	77.4	+2.6

◆問題番号7(1)は「必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる」ことが問題の趣旨である。

④課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
6 (2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する	29.2	25.7	+3.5

6 結菜さんと太一さんは、3、6や12、15のような連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、次の計算をしました。

$$3, 6 \text{ のとき} \quad 3 + 6 = 9$$

$$12, 15 \text{ のとき} \quad 12 + 15 = 27$$

$$30, 33 \text{ のとき} \quad 30 + 33 = 63$$

(2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「 は、……である。」という形で書きなさい。

解答類型	番号	福岡市	全国
1：正答	1	12.5	12.3
2：正答	2	1.2	1.4
3：正答	3	14.2	10.9
4：正答	4	1.4	1.1
5：誤答	5	16.1	16.3
6：誤答	6	12.4	11.5
99：誤答	7	20.8	21.7
0：誤答	8	21.5	24.9

【正答の条件】

「○○は、◇◇である。」という形で、次の(a)、(b)について記述しているもの。

(a) ○○が、「連続する2つの3の倍数の和」である。

(b) ◇◇が、「奇数」である。

課題

文字を用いた式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるように指導することが大切。

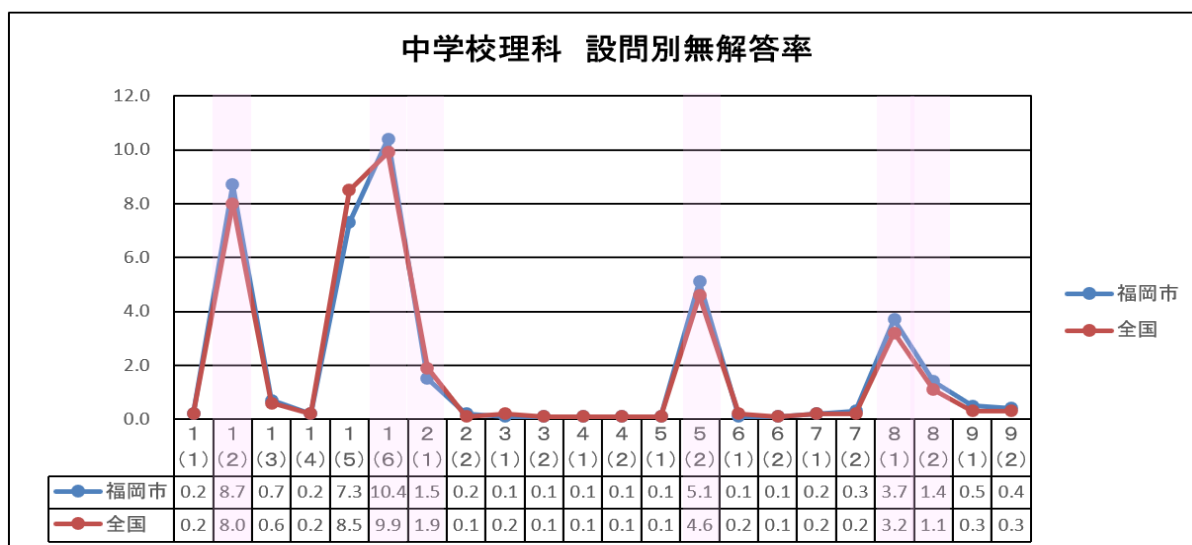
(8) 中学校理科の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

※ 全国（公立）を上回る 全国（公立）を下回る

問題番号	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		
	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	福岡市	福岡県(公立)	全国(公立)
全体（IRTスコア）											503	497	503
1 (1)	(3) (7)㊟				○		／	○			54.8	51.5	51.9
1 (2)		(2) (7)㊟				○	／			○	40.3	42.9	46.2
1 (3)				(2) (7)㊟		○	／	○			35.4	35.4	36.2
1 (4)			(3) (7)㊟		○		／	○			29.4	29.2	29.7
1 (5)		(4) (7)㊟			○		／		○		52.9	44.7	44.9
1 (6)		(2) (7)㊟				○	／			○	77.7	79.9	79.4
2 (1)	(1) (7)㊟					○	／			○	10.5	12.1	14.0
2 (2)	(1) (7)㊟				○		／	○			93.2	93.3	94.6
3 (1)	(3) (7)㊟					○	／	○			35.4	34.3	34.9
3 (2)	(3) (7)㊟				○		／	○			86.3	84.3	85.2
4 (1)		(2) (7)㊟				○	／	○			51.3	49.2	50.4
4 (2)		(2) (7)㊟			○		／	○			94.0	92.5	92.8
5 (1)		(2) (7)㊟			○		／	○			91.1	91.9	93.0
5 (2)		(4) (7)㊟				○	／			○	37.4	35.3	35.6
6 (1)			(1) (7)㊟		○		／	○			63.6	62.5	65.9
6 (2)			(3) (7)㊟			○	／	○			41.9	41.5	41.9
7 (1)			(3) (7)㊟			○	／	○			36.0	33.6	34.8
7 (2)		(4) (7)㊟	(3) (7)㊟		○		／	○			56.8	54.2	51.6
8 (1)				(2) (7)㊟		○	／			○	43.5	44.3	42.2
8 (2)				(2) (7)㊟		○	／			○	18.2	17.6	18.1
9 (1)				(4) (7)㊟		○	／	○			30.4	31.6	31.8
9 (2)				(4) (7)㊟	○		／	○			59.6	61.0	58.1

②無解答率



※薄ピンクの網掛け記述式の問題

③平均正答率が高かった問題

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
4 (2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	94.0	92.8	+1.2

◆問題番号4 (2) は「火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる」ことが問題の趣旨である。

④課題がみられた問題とその分析

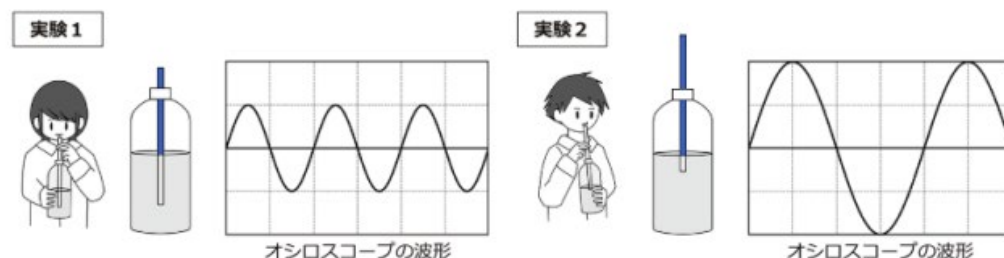
問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
2 (1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	10.5	14.0	-3.5

理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。

(1)、(2)の各問いに答えなさい。



【実験】「ストロー内の空気が入る長さ（ の部分）」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。



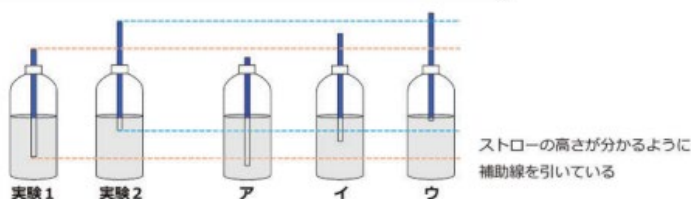
右のように【考察】しました。

【考察】

「ストロー内の空気が入る長さ（ の部分）」が、長くなるにつれて、音はだんだん低くなる。



【考察】をより確かなものにするためには、あと1つ実験を行うとよいですね。次のア、イ、ウのどれで実験を行えばよいかな。



(1)

下線部について、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を追加するとしたら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますか、1つ選びなさい。

上のア、イ、ウのどの実験を選んでてもかまいません。

また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何が分かればよいが、振動数という言葉を使って書きなさい。

選んだ実験 選択肢から選ぶ

課題

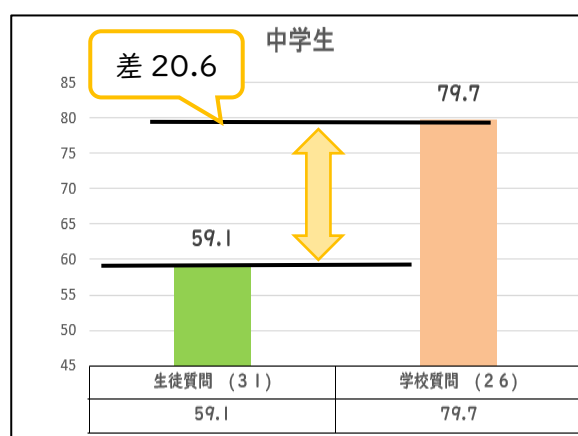
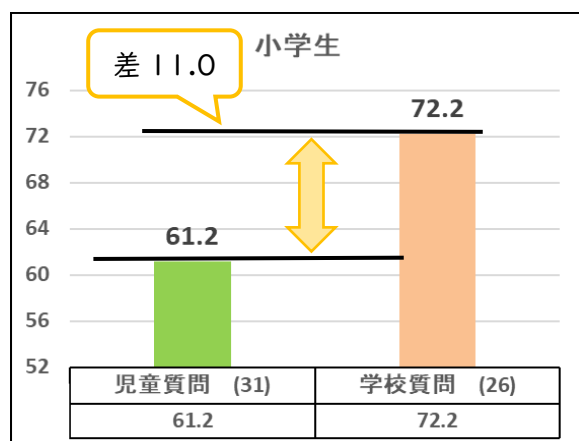
科学的な探究の見通しをもつために、すぐに観察、実験を行うのではなく、個人やグループなどで「観察、実験の結果から何が分かればよいのか」について、確認して共有するなどの学習場面を設定することが考えられる。

その際、本設問のように、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明するなどの場面において、「実験1と比較して・・・」など、比較して関係付ける対象を明確にして示すような言語活動の充実も求められる。

3 児童生徒質問及び学校質問調査の結果について

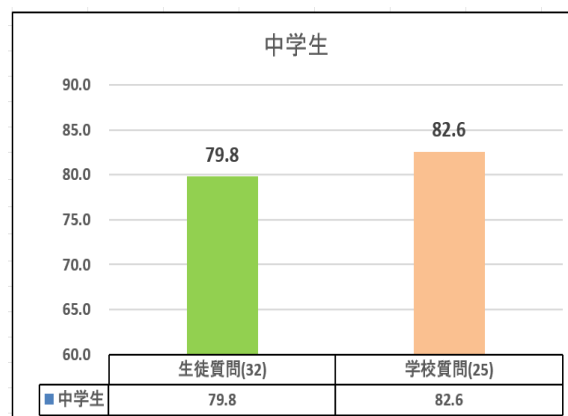
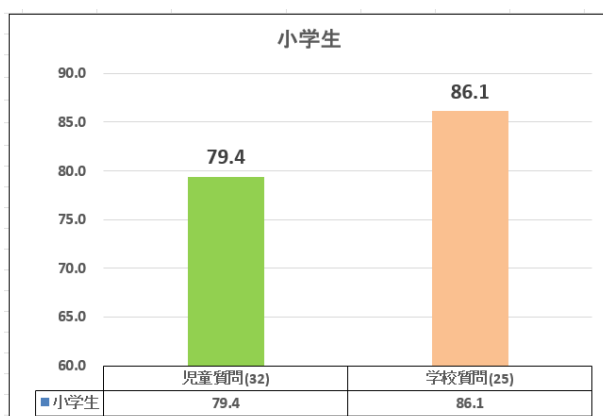
(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

児童生徒 31	5年生まで（1、2年生とき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
学校 26	調査対象学年の児童（生徒）は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。



◆学校質問 26 において、児童生徒質問 29 との差が、小学校では 11.0%、中学校では、20.6%である。児童生徒と教師との認識について差があることが分かる。

児童生徒 32	5年生まで（1、2年生とき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
学校 25	調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。

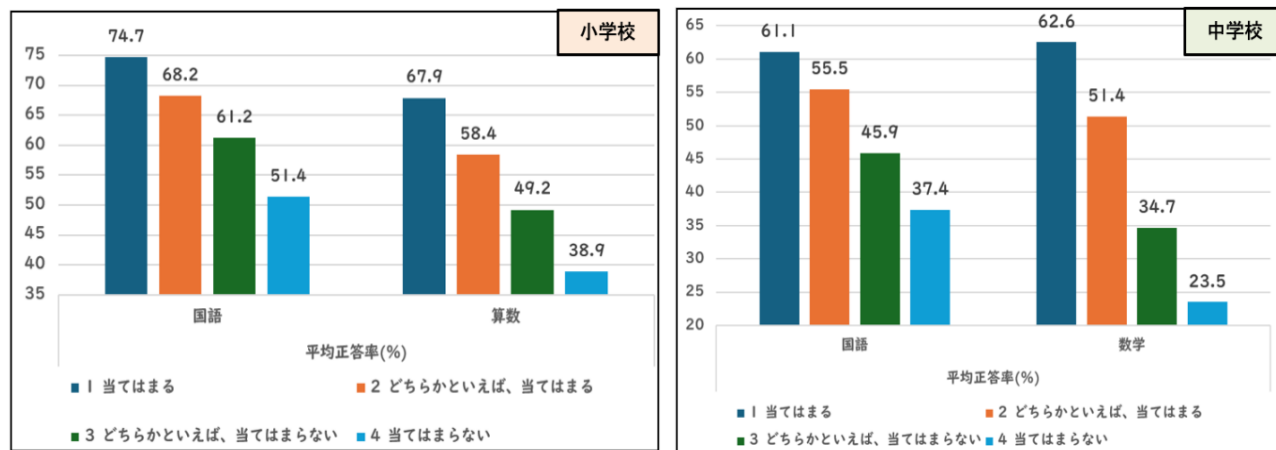


◆学校質問 25 において、児童生徒質問 32 との差が、小学校では 6.7%、中学校では、2.8%である。多少の認識の差があることが分かる。

(2) 児童生徒質問と教科のクロス集計の分析

【児童生徒 3 2】

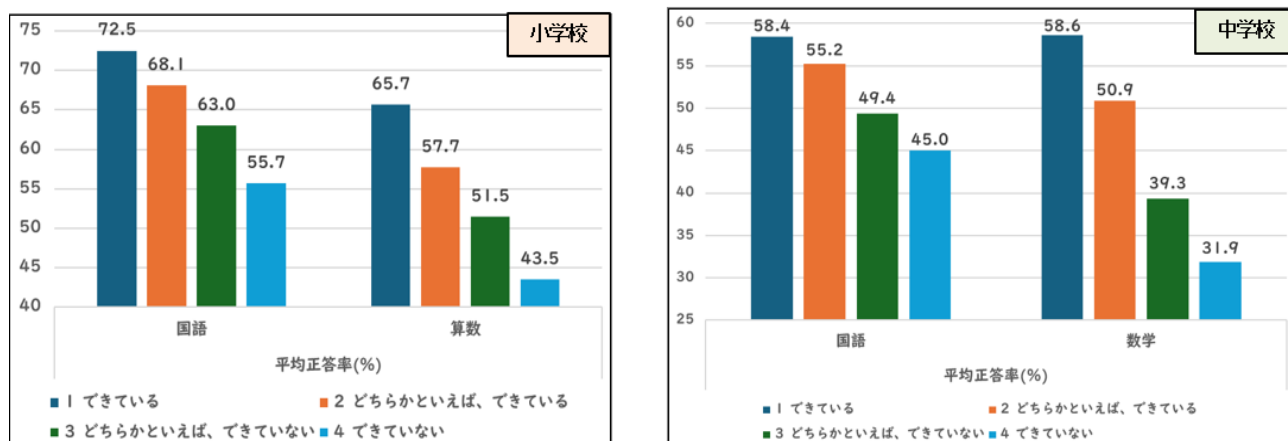
5年生までに（中学校 1、2年生までに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答している児童生徒ほど国語・算数（数学）平均正答率が高い。特に算数・数学で顕著。

【児童生徒 1 6】

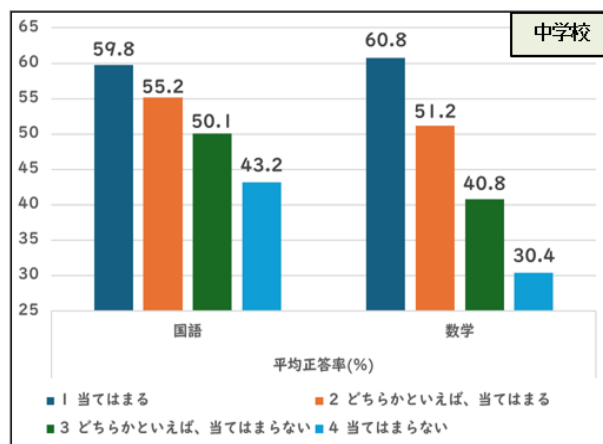
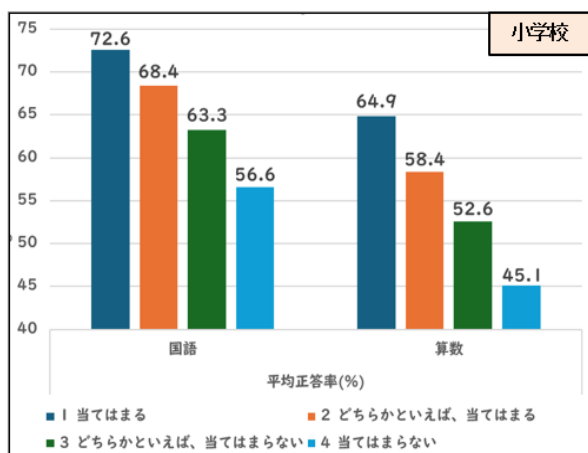
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



「自分で学び方を考え、工夫することはできている」と回答している児童生徒ほど国語・算数（数学）平均正答率が高い。特に算数・数学で顕著。

【児童生徒 3 6】

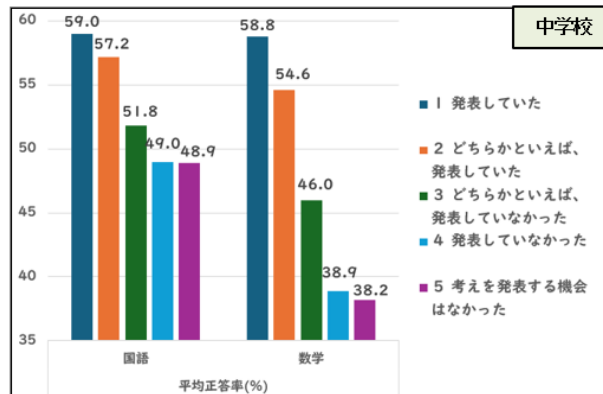
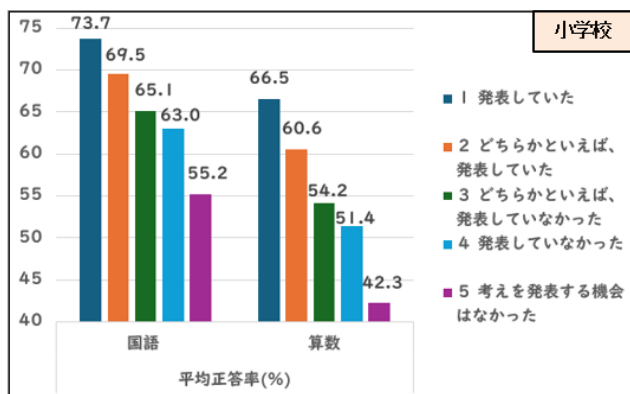
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」と回答している児童生徒ほど国語・算数（数学）平均正答率が高い。特に算数・数学で顕著。

【児童生徒 3 1】

5年生までに（1、2年生までに）受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

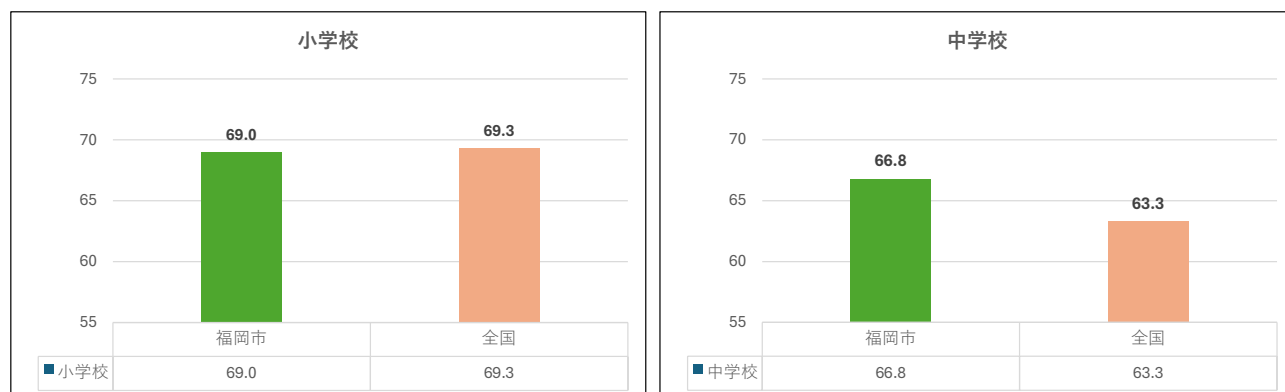


「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」児童生徒ほど、国語・算数（数学）平均生徒率が高い。また、「考えを発表する機会 was not had」児童生徒ほど、国語・算数（数学）の平均正答率が低い。

(3) ICT を活用した学習状況とクロス集計の分析＜生徒質問—教科＞

【児童生徒 29-3】

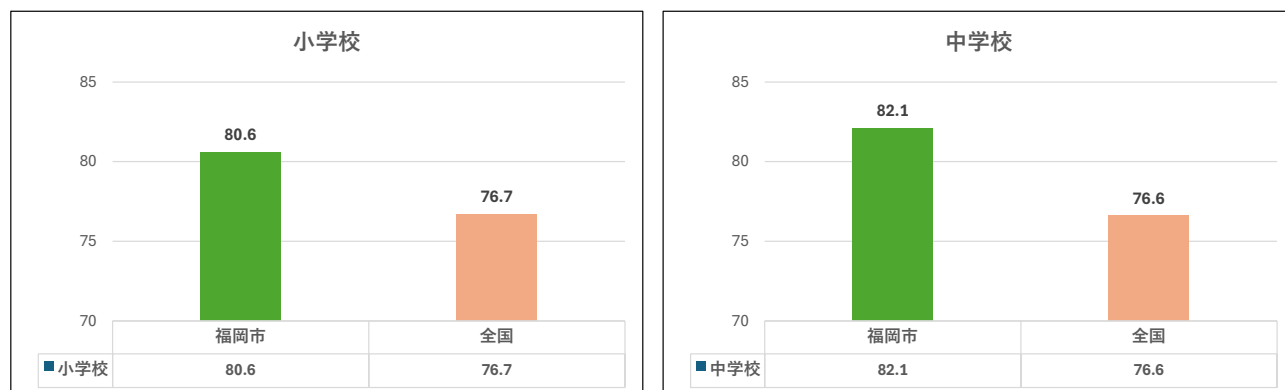
あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか



「PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる」と回答している児童生徒が小学校 69%、中学校 約66.8%となっている

【児童生徒 29-4】

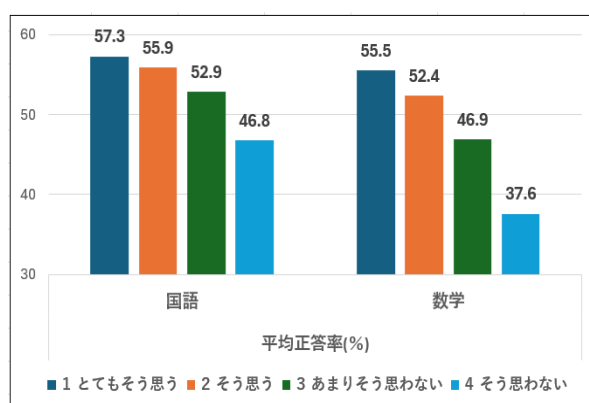
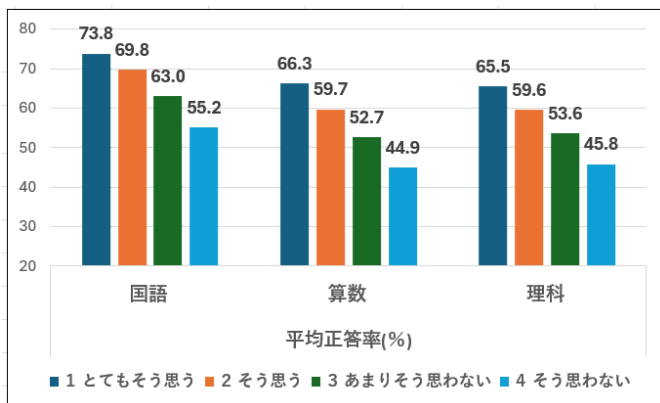
あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか



「PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる」と回答している児童生徒が小学校 80.6%、中学校 82.1%と、小中学校ともに 80%を超えている。

【児童生徒 29-3】クロス集計の分析＜生徒質問—教科＞

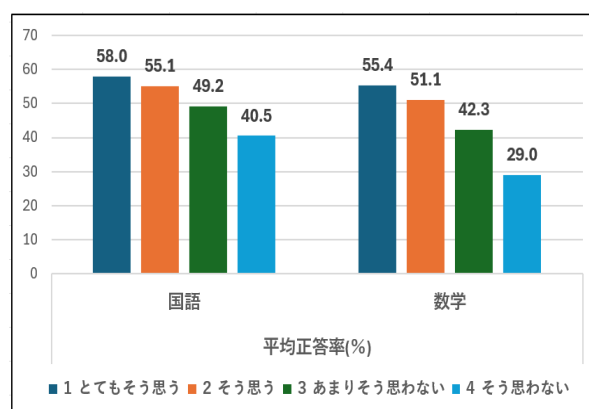
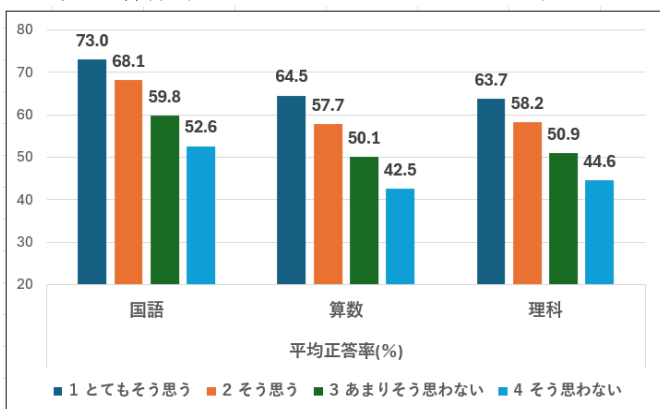
あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか



「自分で PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる」と回答している児童生徒ほど国語・算数・理科の平均正答率が高い。

【児童生徒 29-4】クロス集計の分析＜生徒質問—教科＞

あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか



「自分で PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる」と回答している児童生徒ほど国語・算数（数学）平均正答率が高い。

(4) 規範意識・自己有用感等

経年変化の略記

- ・ 前回調査 5 ポイント以上増加（減少）している場合

増加 ↑ 減少 ↓

- ・ H31 の調査（項目がない場合は一番古い年度の調査） 5 ポイント以上 増加（減少）している場合 増加 ↗ 減少 ↘

(規範意識)

○8<8>人が困っているときは、進んで助けていますか。		
	福岡市	全国
小	94.0↗	93.7
中	91.6↗	90.9

○9<9>いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか		
小	97.1	97.2
中	96.2	95.9

○11<11>人の役に立つ人間になりたいと思いますか		
小	97.1	96.4
中	97.5	96.6

(自己有用感等)

○5<5>自分には、よいところがあると思いますか		
	福岡市	全国
小	88.5↗	86.9
中	89.3↗	86.2

○6<6>先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか		
小	92.1↗	92.2
中	92.2↗	92.2

○7<7>将来の夢や目標を持っていますか		
小	83.2	83.1
中	70.7	67.5

○12<12>学校に行くのは楽しいと思いますか		
小	87.0	86.5
中	88.6↗	86.1

○13<13>自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか		
小	78.0↗	78.1
中	82.4	79.2

○14<14>友達関係に満足していますか		
小	91.5	91.7
中	92.1	91.4

○15<15>普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか		
小	92.6	93.0

中	92.3↗	91.6
---	-------	------

○27〈27〉地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか		
小	84.5↗	81.3
中	79.8↗	75.3

4 成果と課題

- 教科に関する調査においては、一昨年度の課題であった無解答率が全体で減少。ただし、小学校国語の無解答率が、後半の問題で増えている要因としては、問題に慣れていないことが考えられる。
- 規範意識や社会性の基礎となる「自己有用感」に関する質問に対する肯定回答率が高い。児童生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する回答や各教科の正答率との間には相関が見られると述べている。
- 福岡市全体として、学校質問結果から、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校が多いことがわかる。
- 児童生徒質問と学校質問の「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」等の主体的・対話的で深い学びに関する項目に認識の差が見られる。そのため、子ども主体とした自ら考え、判断し、行動し、結果や過程を振り返る自律的な学びを進める必要がある。
- 「PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理したり、プレゼンテーションを整理したりすることができる児童生徒の各教科の平均正答率が高いことが結果より分かったため、目的を明確にした ICT 機器の活用について促していく必要がある。

5 取組の方向性

(1) 教育委員会としての取組

- ◆教育委員会と学校が一体となり、指導主事訪問等で各学校の実態にあった指導助言を行う。
- ◆考えをまとめ、発表・表現する場面や意見交流する場面等において、手段としての ICT 活用の在り方を明らかにし、全学校に周知し、好事例を創出する。
- ◆「子どもが自ら考え、判断し、行動し、結果や過程を振り返る」自律した学習者を育てる学びを全市に展開する。

(2) 各学校での取組

- ◆自校の学力・学習状況調査の成果と課題の分析
 - 全職員、全学年、全教科で、課題の共有をし、学習指導要領で育成を目指す資質・能力の再確認した上で、学校教育指導の重点である「自律的な学び」の三つのポイント「学びを促進する環境づくり」「学びを深め・高める仕組みづくり」「互いに支え合う風土づくり」をふまえた、「子ども主体」の授業づくりに関して、教員一人ひとりが自分の授業等を振り返り、全校で協力し授業改善を行う。「何ができるようになるか」を出発点にした教科らしい学びや ICT の活用を工夫した授業改善を行う。
- ◆子ども主体の自律的な学びを実現するための校内研修の実施